

d. 所属先に見せて実践したい写真 1 枚

(1) アーチを立ててネットを張る栽培方法（土壌保護、害虫・雑草予防）



(2) 無臭の鶏糞有機肥料



(3) 生ごみから有機肥料を製造する機械（2 時間程度で処理可能）



2.② 日系農業者団体女性部の女性活躍推進研修

日系農業者団体女性部を対象に、食品製造、花きの栽培、販売等実地体験を交え、日本の農村女性の取組を視察するとともに、女性をはじめとする農業関係者と交流を深めた。

コース	日程	研修生
日系農業者団体女性部の女性活躍推進研修	令和元年 11 月 15 日～12 月 10 日	合計 8 名（ブラジル 5 名、アルゼンチン 1 名、パラグアイ 1 名、ボリビア 1 名）

1) 基本情報

期間	令和元年 11 月 15 日～12 月 10 日（計 26 日間）
場所	東京都、千葉県、埼玉県、長野県、愛媛県、高知県
研修生	8 名（ブラジル 5 名、アルゼンチン 1 名、パラグアイ 1 名、ボリビア 1 名）
目的	■日系社会の地域活性化に取り組む意欲ある女性を対象とする。展示会視察し、日本における農産物加工や販売方法を学ぶ。 ■日本の地方を訪問し、農村の地域活性化の取組に触れる。さらに女性のエンパワーメントを目的として、アグリツーリズムに取り組む女性の活動の視察や農村女性団体との交流を図る。帰国後に、所属する組織・地域でのアグリツーリズムや特産品開発の新たな活動を目指す。

2) 研修生

No.	性別・年代	国	組織	業務
1	女性 40 代	ブラジル	トメアス農協女性部	部長
2	女性 50 代	ブラジル	サンフランシスコバレー文化スポーツ協会	会員・生産者
3	女性 50 代	ブラジル	モジダスクルーゼス農村組合	組合員・生産者
4	女性 40 代	ブラジル	ブラジル農協婦人部連合会（ADESC）	役員（副会計）
5	女性 50 代	ブラジル	レジストロ日伯文化協会	会員
6	女性 50 代	アルゼンチン	メルコフロール花卉生産者組合	生産者
7	女性 40 代	パラグアイ	ラパス日本人会婦人会	会長
8	女性 50 代	ボリビア	サンファン連合婦人会	副会長

3) 日程

日数	日付	曜	内容	場所
1	11 月 15 日	金	南米出発	
2	11 月 16 日	土	機内	
3	11 月 17 日	日	日本到着	東京
4	11 月 18 日	月	オリエンテーション	東京
5	11 月 19 日	火	ソフトバンク（農業 IoT ツール実用現場）、海外移民博物館 ※	東京
6	11 月 20 日	水	アグロイノベーション（日本企業とのマッチング）※	東京
7	11 月 21 日	木	休日	東京
8	11 月 22 日	金	ファーム・インさぎ山（グリーンツーリズム）	埼玉
9	11 月 23 日	土	高知へ移動、JA 高知県れいほく支部女性部（交流会）	高知
10	11 月 24 日	日	料理講習（米粉）	高知
11	11 月 25 日	月	休日	高知
12	11 月 26 日	火	愛媛へ移動、遊子川ザ・リコピンズ講習（地域活性化）	愛媛
13	11 月 27 日	水	遊子川ザ・リコピンズ講習（商品開発）	愛媛
14	11 月 28 日	木	JA にしうわ八幡浜女性部講習、手芸講習、東京へ移動	愛媛
15	11 月 29 日	金	“日本の食品”輸出 EXPO（幕張）	千葉
16	11 月 30 日	土	休日	東京
17	12 月 1 日	日	長野へ移動	長野
18	12 月 2 日	月	信州せいしゅん村（農村ツーリズム）、味の里とおみ（食品加工）、えだま	長野

			めの会（食品加工）、ウッドベルファーム（トマト）	
19	12月3日	火	八鍬豆腐店（豆腐）、松尾町フードサロン（和食お膳）、十八塚りんご生産協同組合（観光農園）	長野
20	12月4日	水	依田窪南部中学校（学校教育）、丸子福祉会・とんぼハウス・きらり（福祉施設）、東京へ移動	長野
21	12月5日	木	報告書作成	東京
22	12月6日	金	農林水産省（農業女子プロジェクト、研修報告）、研修総括	東京
23	12月7日	土	休日	東京
24	12月8日	日	休日	東京
25	12月9日	月	日本出発	
26	12月10日	火	南米帰着	

※若手農業者等の育成研修「アグリビジネス研修：農業ツール」と合同で実施



農村体験（草木染）



企業組合の商品開発



農村ツーリズム

4) 研修の成果・考察

- 本研修では「地域活性化」を主なテーマとして、地域活性化に取り組む農村女性の取組を視察し交流するとともに、日本におけるアグリツーリズムや特産品開発について学んだ。都会の人に農村体験をさせる取組について話を聞くことで、農村の「何もないけど自然がある」という価値、さらには農家が有する自給自足できる力について、再認識する機会となった。
- さらに食品製造についても米粉料理、和食お膳、豆腐など、実践的な講習を行った。“日本の食品”輸出EXPOでも、日本における様々な加工品を見ることで、新たな商品開発する上での検討材料となった。料理については帰国後に実践しやすいため、研修で覚えたことが各研修生の地域に還元されることが期待される。
- 特に愛媛県の企業組合では、映画作りや特産品開発といった地域活性化の取組について話を聞き、女性団体による加工品開発（トマトケチャップなど）が地域に活力を与えている事例は研修生にとって大きな刺激となった。さらに愛媛県の農協では、特産品であるみかんを活用した料理の講習を受け、地域農産物を活かした食品の製造について、南米の各地域で応用し得るアイデアを得ることができた。

5) 研修生による報告書

a. 有益であった点・特に印象に残った点

- 女性経営者たちとの会話を通して、グループ活動や仕事が生きがいになり、どれだけ幸せな生活をもたらすかを知った。訪問先の団体ではビジネスの事例としてだけでなく、共同作業ややりがいのある仕事によって、充実した生活を送るための方法が見て取れた。共通の目標を持って各自やるべきことをやっていた。
- 知り合った人々の多彩な経験により、商品のブランディングやストーリーを作ることで商品の価値を高め、商品に適したパッケージやラベルを作り、そして販売方法を工夫するなど、ビジネスにおける商品戦略の重要性を知った。さらに、食品加工が農産物に付加価値をつける手段であることも知った。
- 愛媛県西予市遊子川地区を訪ねた際、企業組合が行っている活動の一環である食堂や同団体が規格外トマトを活用して商品開発を行っているケチャップやポン酢調味料など、企業組合女性グル

ープの特産品・開発事業の活躍が印象に残った。

- 米粉講習はとても印象的で、ブラジルでも米粉食品を作り、市場で販売しようと思った。現在米粉を使った商品はあまり数がなく、グルテンフリーの健康的なレシピを開発できる可能性があるからである。
- 生産者が直接消費者に販売するシステムは、中間業者を挟まない販売方法であり、利益率を高めることができる。さらに商品のパッケージや見た目を用途ごとに変え、各商品に付加価値を付けられる。
- 果物や野菜（いんげん、ゴーヤー、オクラ）を乾燥食品にしてスナック感覚で食べれるようにしているアイデアがとても興味深かった。

b. 実践したい地域活性化のための活動

- 学校でのアグリツーリズムを支援し、学校で月に一度ほど「農業の日」を設けて農場への訪問ができるようにする。
- 直売所を実施してみたい。目的としては地域の“若者と高齢者”を繋げる活動として、収入を得つつ、生きがいに繋がる活動になると感じたからである。私の所属している団体として、地域の世代間でのコミュニケーションの場や地域活性化として盛り上げ、かつ、収益を得る仕組みづくりの一つとして実施してみたいと考えている。
- 所属している団体での現在の中心活動であるマルシェ販売促進活動で、さらに地域の生産者を取り込み、より多くの生産者に加工品開発や規格外野菜の利用方法などを広めることで、移住地内の小規模生産者の活性化に取り組めればと考えている。

c. 帰国後の所属先・地域での新たな特産品開発

- 愛媛県農協の女性部が実践している特産品であるみかんを存分に生かした料理を参考にした地域の特産品メニューの作成をしたい。
- 所属している団体の婦人部や青年部のメンバーに対してアイデア料理の講習会を実施し、団体のメンバーに地域の特産品を考えてもらいたい。私の地域では収穫しても残ってしまう果物・野菜などがあるため、有効に利用できればと考えている。
- 愛媛県の企業組合で規格外になってしまった青トマトを使用した粕漬を見たときに、はやと瓜を使用した商品化がボリビアでできると考え、規格外になってしまった商品アイデアからはやと瓜の他にもキュウリや他の野菜など様々な野菜で応用して商品開発を進めたいと考えている。

e. 所属先に見せて実践したい写真 1 枚

(1) 企業組合の商品開発、特に農産物から作る酢 	(2) 見た目にも綺麗なさくらゼリーを地域のぶどうで実践することを検討 	(3) 企業組合の女性の力で地域を活性化させている活動 
(4) グルテンフリーである米粉菓子の今後の可能性 	(5) 地域の草花や農産物を使った草木染による特産品開発 	(6) みかんの皮を器に使ったみかん丸ごとゼリーの有効活用 
(7) 特産品のみかんを活かした料理 	(8) 企業組合の規格外青トマトを使用した粕漬け 	

2. ③ 農業・食産業分野に係る専門家派遣による研修（中南米現地）

農業・食産業分野に係る専門家派遣による研修は第 1 回連携強化会議の際に希望者の多かった「販売・マーケティング」「地域活性化」という 2 つのテーマで実施し、専門家を派遣した。

コース	日程	研修生
(1) 販売・マーケティング	令和元年 11 月 10 日～14 日	54 名（ブラジル 47 名、アルゼンチン 1 名、パラグアイ 1 名、ボリビア 1 名、ペルー 4 名）
(2) 地域活性化	令和 2 年 1 月 19 日～2 月 6 日	合計 152 名（ブラジル 147 名、アルゼンチン 1 名、パラグアイ 3 名、ボリビア 1 名）

(1) 販売・マーケティング

1) 基本情報

専門家	松村 繁満（まつむら しげみつ） JICA シニアボランティア（マツトグロッソドスル州スルマツトグロセンセ農協）
期間	令和元年 11 月 10 日～14 日（計 5 日間）
場所	ブラジル国ミナスジェライス州サンゴタルド市
参加者	合計 54 名（ブラジル 47 名、アルゼンチン 1 名、パラグアイ 1 名、ボリビア 1 名、ペルー 4 名）、在外公館 1 名
内容	サンゴタルド地域は地域ブランドを立ち上げ、そのマークを商品に付けることで、付加価値の高い商品を販売している。生産者の情報を消費者に開示し、さらに QR コードの導入によって、生産者の情報や輸送の方法が消費者に示すトレーサビリティに取り組んでいる。研修ではサンゴタルド地域の各生産グループの取組を視察するとともに、農協の改善指導を行っている松村専門家から「カイゼン活動の農業分野への導入」というテーマで、サンゴタルド地域で実践可能な改善の取組について講習を行う。

2) 参加者

ブラジル(47)	アルトパラナイーバ農協(11)、セラードブラジレイロ農協(2)、サンゴタルド地域協議会(3)、サンゴタルドアグリコマーシャル(2)、サンゴタルド協会(3)、ツゲグループ(2)、Leopolis グループ(9)、シマダアグリビジネスグループ(3)、サンゴタルド市長(1)、LA アグリビジネス(1)、サンジョセ農場(1)、Agropesg 社(1)、Allero アグリビジネス(1) スルミナス農協(1)、モジダスクルーゼス農村組合(2)、南伯サンミゲールアルカンジョ農協(1)、ウニオンカストレンセ農協(1)、ラーモス日伯文化協会(1)、APPC 農協(1)
アルゼンチン(1)	エコフロール花卉農協(1)
パラグアイ(1)	ラパス農協(1)
ボリビア(1)	サンフアン農協(1)
ペルー(4)	エスキベル農畜産物生産者協会(2)、ペルー日系人協会カニエテ(2)
関係機関(1)	在サンパウロ日本国総領事館(1)

3) 日程

日数	日付	曜	内容	場所
1	11 月 10 日	日	ドウラードス出発 サンパウロ到着、サンパウロ出発	サンパウロ
2	11 月 11 日	月	サンゴタルド着 サンゴタルド地域協議会、アルトパラナイーバ農協 COPADAP、サンゴタルドアグリコマーシャル CASG（ヤマシタグループ）、セキタアグリビジネス	サンゴタルド
3	11 月 12 日	火	シマダアグリビジネスグループ、ツゲグループ、セラードブラジレイロ農協、Leopolis グループ、サンゴタルド地域農村生産者支援協会 講習会「改善」松村繁満専門家	サンゴタルド
4	11 月 13 日	水	サンゴタルド出発、サンパウロ到着	サンゴタルド
5	11 月 14 日	木	サンパウロ出発、ドウラードス到着	サンパウロ



サンゴタルド地域協議会の訪問



松村専門家「改善」講習会

4) 研修の成果・考察

- 本研修は第1回日系農業者等連携強化会議で要望のあった「販売・マーケティング」をテーマとし、同テーマで先進的な取組をしているサンゴタルド地域を視察する研修を組んだ。参加者は研修生OB会であるJ-AGROからの呼び掛けもあり、本事業に積極的に関わる意欲的な若手人材が参加した。訪問先のサンゴタルド地域の組織においても意欲的で行動力のある若い世代が経営の中心となっていることもあり、参加者に強いインパクトを与えたと思われる。経営についての基本的な考え方やスピリットは、先代の貢献があったからという尊敬の上に成り立っていることも垣間見えた。
- サンゴタルド地域では生産物に付加価値を付けるための地域ブランドの認識が地域全体にあり、生産者グループ間で問題点（病虫害など）を共有し、対応策の意見交換をしている。1人で問題を抱え込んでも産地としての力にならないという認識がある。同様に、販売においても、1人ではできないことも力を合わせることで可能になるという考えが定着しており、大きな生産量を確保することによって商談を有利に導き、販売力の強化に繋げている。マーケティングにおいても、特ににんにくを生産するグループでは、競合する中国・アルゼンチン産にんにくの輸入動向や、ブラジルの国内市場における入荷量・産地・価格の推移について情報収集をし、冷蔵施設に使用して出荷のコントロールをしている。さらに製品のパッケージの改善やブランディング、人気キャラクターとのコラボによる販売戦略など、参考になる点は非常に多かったものと思われる。
- 松村専門家の講義ではカイゼン（改善）についての概要説明に加えて、現場視察の中で気が付いた改善の必要のある箇所の写真を提示し、参加者にどこが問題で、どう改善すべきかを問いながら解説した。普段当たり前の状況に慣れて、気が付いていない点が多数挙げられ、効率性向上に向けた見直しの機会となった。

5) 専門家の所感

講演会の内容

- 講演では、現在活動しているスルマットグロセンセ農協（COPASUL）の事例を使いながらカイゼン活動の内容を紹介した。さらに今回訪問したサンゴタルド地域の農協や各農業者グループの現場写真などを使いながら、参加者と一緒にカイゼンについての意見交換も実施した。
- 日本の製造現場から始まった「品質・生産性向上」活動のカイゼンは現在全世界に広まり、あらゆる産業の中でこの活動が行われている。数年前からこのカイゼン活動は農業分野へも広まってきている。カイゼン活動の目的は「カイゼン活動を実行し、従業員を育成すること」である。その結果、高い品質、高い生産性（低コスト）の生産物を市場へ提供していく。

研修プログラムの印象

- 今回訪問した農協、各農業生産者グループは6次産業の模範となるようなところであった。生産から出荷・販売までの各プロセスで生産性の高い、良い品質管理が行われていた。また、循環型農業、かんがい設備、各種機械の導入、土壌の微生物分析などの実験室、実験農場など、参加者にとって非常に良い研修になったものと思う。

- 講演をした「カイゼン活動の農業分野への導入」については、今後6次産業で成功を勝ち取るには、このカイゼン活動を通して人の育成をしていくことが重要になる。農協、各農業生産者グループで理解され、実行されていくことを期待する。

6) 研修生の所感

サンゴタルド農業者団体の視察

- 大型の冷蔵倉庫を整備して農産物の保存能力を充実させ、常に市場の動きを調べて、一番利益率が高い時期に市場に出す戦略を取っている点が印象に残った。自分たちが生産しているものだけではなく、例えばピーツの値が安い時期に買い占め、価格が最も高い時期に販売するという方法も実施している。
- 人気キャラクターとのコラボによって、子供をターゲットとした付加価値のある商品を作り、新しい市場を生み出していると感じた。
- お互いの利害が一致した生産者同士が手を組むことによって、地域としての生産能力を高め競争率の高い市場にも対抗する術を身に着けている点が素晴らしい。

改善の講演

- 講演では作業場では気が付かない点を示し、組織力と規律が作業環境に不可欠だと認識できた。講演を通じてどんなに組織力に長けている企業にも、必ず経営や業務を改善できることがあり、無駄を省きコストダウンすることで、組織力の向上に貢献できる。
- 日々の作業の中では、安全性や無駄を後回しにしてしまうことがあるが、今日聞いたことを自分の農場でも実践する新しいアイデアが浮かんだったので実践していきたい。
- 改善や5sの概念について再認識することができた。現場視察で見えた問題、原因と解決策を紹介して分かりやすいと感じた。

(2) 地域活性化

1) 基本情報

専門家	辻本 京子（つじもと きょうこ） 企業組合 遊子川ザ・リコピンズ代表
期間	令和2年1月19日～2月6日（計19日間）
場所	ブラジル国サンパウロ州ピラールドスル市、カップンボニート市、レジストロ市、サンパウロ市
参加者	合計152名（ブラジル名147名、アルゼンチン1名、パラグアイ3名、ボリビア1名）
内容	愛媛県西予市の山間部にある遊子川地域における地域活性化や、遊子川ザ・リコピンズの規格外トマトの加工品開発の取組を紹介する。講習後にグループワークを行い、参加者自身が考え、今後の地域活動に活かせるアイデアを出し合いプロジェクト計画を発表する。さらにサンパウロでは南米各国の女性による「女性による地域活性化セミナー」を実施し、女性団体活動の価値向上及び相互促進を図る。

2) 参加者

No.	日付	国	場所	参加者
1	1月22日	ブラジル	サンパウロ州ピラールドスル市 （その他、カウカイアドアウト、ピニャール、バルジェングランデパウリスタのグループが集合）	57名
2	1月24日	ブラジル	サンパウロ州カップンボニート市	14名
3	1月27日	ブラジル	サンパウロ州レジストロ市	37名
4	1月29日	ブラジル	女性による地域活性化セミナー （ブラジル名39名、アルゼンチン1名、パラグアイ3名、ボリビア1名）	44名

3) 日程

日数	日付	曜	内容	場所
1	1月19日	日	日本出発	
2	1月20日	月	ブラジル到着	サンパウロ
3	1月21日	火	ピラールドスルへ移動 地域・農場視察	ピラールドスル
4	1月22日	水	遊子川ザ・リコピンズ活動紹介・トマト料理講習 グループワーク「地域活性化」、食堂ゆすかわ映画上映	ピラールドスル
5	1月23日	木	グループワークのフィードバック ピラールドスル→カッボンボニートへ移動	カッボンボニート
6	1月24日	金	遊子川ザ・リコピンズ活動紹介・トマト料理講習 グループワーク「地域活性化」	カッボンボニート
7	1月25日	土	レジストロへ移動	レジストロ
8	1月26日	日	地域視察	レジストロ
9	1月27日	月	リコピンズ活動紹介・トマト料理講習 グループワーク「地域活性化」、食堂ゆすかわ映画上映	レジストロ
10	1月28日	火	グループワークのフィードバック サンパウロへ移動	サンパウロ
11	1月29日	水	女性による地域活性化セミナー	サンパウロ
12	1月30日	木	若手農業者交流会議 農業ビジネスセミナー	サンパウロ
13	1月31日	金	日系農業者等連携強化会議	サンパウロ
14	2月1日	土	市場視察（青葉祭り、スーパーマーケット等）	サンパウロ
15	2月2日	日	休日	サンパウロ
16	2月3日	月	報告書作成	サンパウロ
17	2月4日	火	ブラジル出発	
18	2月5日	水	乗継	
19	2月6日	木	日本到着	



レジストロでの講演会



カッボンボニートでのグループワーク

4) 研修の成果・考察

- 本研修は第1回日系農業者等連携強化会議で要望のあった「地域活性化」をテーマとし、前年度事業及び今年度事業の日系農業者団体女性部の女性活躍推進研修で訪問し、研修生からの評判が非常に高かった遊子川ザ・リコピンズの辻本京子専門家を派遣した。愛媛県西予市の山間部にある遊子川地域における、遊子川ザ・リコピンズの規格外トマトの加工品開発の取組や、地元映画製作といった地域活性化の取組を紹介した。地域活性化の実践者である辻本専門家の語り掛けは参加者の心に深く響き、自分たちも頑張ろうとモチベーションを与えることができた。
- さらに、本研修の大きな特徴として、講習を受動的に聞くだけでなく、グループワークによって参加者自身が考え、今後の地域活動に活かせるアイデアを出し合い、プロジェクト計画を発表することを目指した。講習を行った各訪問先ではSWOT分析の手法を用いて、事前に組織・地域

の分析をし、その分析をベースに地域活性化のためのプロジェクト計画を各グループが立案した。

グループ	課題	プロジェクト計画
ピラールドスル① ADESC	地域で作られる手作りしそソースは人気があり販売拡大を検討しているが、しそがある時期が限られ、また品質保持期限の設定に根拠がなかった。	季節外のしそ無しソースを考案するとともに、品質を統一するための規格を作る。さらに品質保持期限設定のため細菌検査を行う。
ピラールドスル② APPC女性部	規格外となる果物（ボンカン）があるが、有効に活用できていない。	ボンカンの粒を取り出し、粒入りジュースを開発する。
カウカイアドアウトADESC	販売している焼きそばの味・具が統一されておらず、前日に夜市があるため焼きそばの売り上げが落ちている。	他の焼きそばとは差別化された新しい味のソースを開発し、独自の焼きそばを販売する。
ピニャール	法人格を有していないため、地域で生産した農産物を販売していくに当たって不利な点がある。	会計士の契約、場所の選定、定款の作成によって、会社を設立する。
バルジェングラン デパウリスタ ADESC	朝市場で販売している商品の外観（規格・保存・パッケージ）に改善が必要である。さらに固定顧客が離れている。	包装資材（コスト・品質）の調査や陳列方法の見直し、さらに若年層を意識した商品の販売に取り組む。
カップンボニート ①CACB女性部	農協女性部会員が高齢化しているが、定款によって会員は組合員でなくてはならないことになっている。	組合の定款を見直し、新たな会員を入れるための条件を広げるとともに広報をする。
カップンボニート ②CACB女性部	女性部は「月の夜市」での固定化した役割分担に慣れているが、欠員の際に代わりに担当できない。	後任（副リーダー）の研修をして、役割ローテーションをできるようにする。
レジストロ①ラボーザ地区日伯文化協会	ラボーザ地区日伯文化協会では、会員の取り決めがなく、計画を実現できない状況がある。	会員規約を作成し、協会の取組を明文化する。さらに観光客を受け入れられるように会館を整備する。
レジストロ②日伯文化協会	日伯文化協会青年部の活動（太鼓、旅行）は行われているが、母体組織である文協との距離感が生まれている。	青年部と日伯文化協会（役員）が話し合う機会を設け（親睦ランチ）、文化的な活動を通して協力関係を改善する
レジストロ③農協婦人会	農協婦人会では若い会員が少なく、高齢化している。さらに家庭環境によって、役員の交代が難しい。	若い会員の入会を募るとともに、役員の作業負担軽減やグループ名見直しによって、活性化を図る。

- グループワークでは、普段集まっているメンバーであっても、なかなか改まって話し合うことのない、各組織が抱える課題について議論して見つめ直した。提示されるのではなく、自分たちが解決策を見つけ出すという作業は、参加者にとって大きな刺激となり、上記のようなプロジェクト計画を策定し発表することで、学んだことを実践するという次のステップに繋がる大きな成果があったものと思われる。グループワーク後の1か月程度で、既にプロジェクト実施のための活動を始めたという動きを聞いており、プロジェクト計画の達成が期待される。
- 1月29日には「女性による地域活性化セミナー」を開催した。本研修の振り返り・フィードバックをすると共に、これまでに訪日研修に参加した研修生の帰国後の活動や、南米各国の女性の活動の共有を行った。それぞれ異なる地域に属していても、食品製造や手工芸品製作といった活動や、高齢化といった抱える問題には共通点が多く見られた。今後も情報交換や交流を継続し、女性団体活動の価値向上や相互促進活動を目指すため、南米女性によるFacebookグループNambeino Hanaを結成することとなった。詳細は1.⑤(2)に記載する。